

*** 今日の健康(11月) ***

超音波検査で何がわかるか

<超音波検査(体外式超音波検査法)とは>

超音波は、古くから漁業の魚群探知機等に使用されており、同様の技術を医学的検査に転換応用し、小型にして人体にも使用可能としたものです。

人体に影響のない超音波を発射し、反射してきた超音波の「時間のずれ」を利用してコンピュータ上で画像を再構築し、各臓器の形態上の異常を判断する検査です。

検査時間は15分前後で二次元断層エコーが中心ですが、心臓や血管系の検査では必要に応じてドプラー(連続波)エコーも行ないます。

<主な検査対象臓器と得手・不得手>

頸部:唾液腺、甲状腺、脳底動脈。

胸部:心臓、縦隔、乳腺。

腹部:肝臓、胆道・胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓、副腎、腸管。

泌尿生殖器:膀胱、前立腺、精嚢、陰嚢、子宮、卵巣・卵管。

血管系:胸部・腹部大動静脈、上記臓器の動静脈。

皮膚:皮下脂肪腫。等々ほとんどの臓器で検査が可能ですが、エコーは肝臓や腎臓などの実質臓器の検査が得意で、消化管のような管腔臓器は苦手としています。

<主な対象疾患>

各臓器の腫瘍性病変、炎症性病変、体液貯留の有無などを検査します。

<検査方法>

対象臓器の体表面に、超音波用ゼリーを塗布しプローブ(探触子とも言い超音波を発信、受信する器具)を軽く当て左右上下に移動させ、各臓器の表面から内部、長軸・短軸像、を丹念にくまなく観察します。体位は仰臥位(あおむけ)または左側臥位、右側臥位、腹臥位(うつぶせ)で、画像が良好に描出できる体位とします。

<検査上の注意点>

腹部臓器の検査では、午前中の検査の時は検査当日の朝食を抜くこと、午後の検査では昼食を抜いていただく必要があります。膀胱や前立腺、子宮、卵巣の検査のためには検査の1~2時間前から排尿せずに、膀胱に尿をためていただく必要があります。また、頸部、乳腺、皮下組織などの検査は随時可能です。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏